



懐かしのsabi

さびと共に暮らす

橋、保留杭、フェンス、オートバイ、ミラーポール……。街は鉄でつくられたものであふれています。時の流れとともに生み出されたさびは、セピア色のような味わいある色合いで、街に暮らす人々のさまざまな記憶をよみがえらせてくれます。まさに街の年輪です。

道路の曲がり角に佇むミラーポール。この鏡でいろんなものを映して、いろんな人たちを見守ってきたんだろうなあ。注意板のさびは、通行者の感謝のしるしだ。

昔、学校に行くときによく通った空き地のフェンス。変わっていないようで少しずつ変わった。良い色合いの懐かしのさび。

そんな声が聞こえてくるこれらの写真は、北九州市がウエブサイト上で運営する北九州市時と風の博物館と北九州芸術劇場とのコラボの企画「北九州のsabi展」に投稿された作品です。鉄の街としての歴史を持つ北九州市。時の流れとともに生み出されたさびは、いつしか街の風景になじんでいきました。そのさびの味わいを通して、北九州を愛する人たちが街の過去、現在の魅力をつないでいこうという狙いで、sabi展が2016年1月に開催されました。



天神橋の擬宝珠



赤い橋の下の言い係留杭



見守ってきたさび

北九州市内各地から集まった s a b i 展の写真をコラーシユして作品を創作したデザイナーの岡崎友則氏は、「北九州芸術劇場のイベントである『北九州芸術工業地帯』という街中のアート祭典に出展するための作品でしたから、当初は北九州市の発展の原動力である鉄をテーマにしようと考えていました。しかし作品を立体ではなく平面で展開する際、さびの色や質感の良さに気づき、街中にあふれているさびを集積すると新しい見え方があるのではないかと思うようになりました。昔から目にしていたはずのさびに改めてスポットを当てて見ると、愛おしさを感じるようになり、芸術として捉えることができました」と振り返ります。岡崎さんの作品を鑑賞した人からは「懐かしさを感じました。さびを前向きに捉えた作品をもっと見たい」という声が寄せられたといいます。さびのある風景が、北九州の街を愛する人たちの心と心を結びました。



写真提供：北九州市 時と風の博物館(北九州市企画調整局地方創生推進室内)